■前田利常 加賀2代藩主。家康が危険視した外様大名ながら,将軍家との姻戚をテコに幕藩体制を先導,百万石を盤石にした。 まえだとしつね ハソン島通交・ 1594= 文禄の役で肥前名護屋城に在陣していた時,特派された(正室芳春院まつの侍女)千代保(寿福院)に手をつけ た_前田利家の庶子・四男に、生まれ、長姉幸姫が嫁いだ越中守山城代の前田長種のもとで育てられる。 以後、生母は、芳春院まつから、無言のいじめを受け続けたという。 父利家の特長を受け継いだ立派な体格の持ち主で、 豊臣秀吉没・1598= 4歳:守山城を訪ねた際,**_父利家に初めて会って気に入られ,大小2刀を授けられる。**

前田利家没・1599= 5歳:父が死去。 前田利長が丹羽長重と和睦した際、人質として小松城に赴き、長重からも大人物と丁重に扱われて後、上長兄利長と初対面、適当な跡継ぎがなく困っていたところに、戦時に対応できる人物と見込まれ、一躍世子となり、利光と改名。徳川による政略で、わずか3歳だった秀忠の娘珠姫を妻に迎え、将軍家と姻戚にさせられる一方、利長に対して、生涯、父を超える恩義を感じ続ける。 関ケ原の戦・1600=6歳:前田利長が丹羽長重と和睦した際,

朱印船制始・1601= 7歳:元服。

阿国歌舞伎始1603= 9歳:

徳川家康隠居1605=11歳:豊臣家の力を無くすためには、秀頼を滅ぼす必要があるも、前田利長との間に、彼の存命中は、秀頼に手を 出さない約束をしていた***家康から、利長とともに、伏見城に呼ばれ、初対面。噂通りの人物と知られ、家 康の意を汲んだ利長は自ら隠居、家督を継いで、一挙に第2代藩主になり、朱印高119万2760石とされる。**

家康駿府退隱1607=13歳:

全て異母兄弟であったため、家臣団の抗争はじめ、内憂に苦しめられる。しばらくは 利長の信頼する家臣らの後見を受けて治政,

山田長政渡航1611=17歳:徳川家とのパイプ役として、家康が最も信頼した家臣本多正信の次男政重が加賀藩に迎えられる。

キリスト教禁止・1612=18歳:

支倉常長渡欧1613=10歳:この年,珠姫に,最初の子亀鶴姫が誕生,以後,前田家に徳川の血を入れるため,出産を続ける。 大坂冬の陣・1614=20歳:**_大坂の陣を前に,秀吉への恩義を断ち切れない利長は自ら服毒死。いよいよ自力で,徳川からの信頼を得** るべく,大坂冬の陣には,最大の動員兵力で参戦するも,功を焦って,失敗するが,

大坂夏の陣・1615=21歳:嫡男利高が誕生。*大坂夏の陣では、天才ぶりを発揮。怖れを抱いた家康から、恩賞として'阿波・讃岐・伊予・土佐の四国'への国替を提示されるも固辞、養父利長の哀れな最期に、内心の恨みは消えずに続く。徳川家康没・1616=22歳:加賀・能登に検地を実施。」死を前にした家康が利常に語ったという逸話から、大藩主として、将軍家とは微妙な関係が何える。家康は遺言でも、利常への警戒を示し、父利家と同様、"かぶき者"でもあったことか

ら,幕府からは"底の知れぬ人"と見なされ,生涯,徳川による毒殺への用心を怠らず。

吉**原遊郭始・**1617=23歳:芳春院まつが死去

利根川付替始1621=27歳:

元和大殉教・1622=28歳:この年まで8年間、三男五女を産み続けてきた珠姫が死去。悲嘆にくれ、徳川からの隠密役でもあった珠姫 の乳母に責め続けてられたせいであると、彼女を蛇責めで殺害し、徳川家との関係が悪化したばかりか、その後、前田の当主は、その怨霊に悩まされることになる。 徳川家光将軍1623=29歳:家光が新将軍になると、関係は一気に悪化するも、秀忠の健在中は、それ以上にはならなかったが、

・・・・・1629=35歳:諱を利光から利常と改める。義弟に当たる徳川家光が将軍となっており、その偏諱でもある"光"の字を避け たものと思われる。代わりに、嫡男の利高がその字を与えられて光高と改名している。

寛永禁書令・1630=36歳:

質永禁書令・1630=36歳:
糸割符拡大・1631=37歳: 生母が死去。_大御所秀忠の病中に、様々な活動をして、謀反の嫌疑をかけられ、自ら嫡男光高とともに江戸に下り、懸命に弁明した結果、疑いを解くことができ。光高の正室に家光の養女大姫を迎える。徳川秀忠沙・1632=38歳: 秀忠が死去すると、公然と、軍備を増強して、家光に圧力をかけ始めたことから、江戸に呼びつけられるも、結局、咎めを受けず、以後も、たびたび、幕府の重鎮たちとも関着を起こすが、それでも、改易になるようなことはしないしたたかさで、120万石に及ぶ家領を保つ。

鎖国令V・・1639=45歳: *将軍家光から制止されるも聞かず、光高に家督を譲り、次男利次に富山藩10万石を、三男利治に大聖寺藩7万石を分封、20万石を自らの養老領とし、小松に隠居。支藩創設で、加賀藩は公称高102万5千石になる。
_後水尾院の中宮和子は珠姫の妹で、義兄妹の関係にあたり、幕府に批判的な後水尾院とも深く親交、初の高札・・1642=48歳: _四本電が八条宮智忠親王妃となり、別業「往離宮」の造営に尽力して、京風文化の移入にも努め、"加賀ルネサンス"と呼ばれる基盤か会別文化を開走させて行く

ネサンス"と呼ばれる華麗な金沢文化を開花させて行く。 光高に, 水戸徳川家頼房の娘を迎え, 綱紀が誕生するが,

たい・・・・・1645=51歳: _光高が、大老酒井忠勝を招いた茶会の席で突然倒れて、急死。愕然として、一気に老け込むも、跡を継いだ綱紀が3歳と幼く、将軍家光の命で、綱紀の後見人として藩政を補佐。・・・・・・1645=52歳: _御細工奉行井上権左衛門の死去を契機に、御細工所の機構を整備、金工師の後藤顕乗(下後藤)や後藤覚乗(上後藤)、時絵師の五十嵐道本治本が表示状态にある。京都や江戸から優れた一流の名工たちを高禄で召し抱え ,美術工芸の振興に努めるなど,文化面でも怠りなく,

市中諸法度·1648=54歳:

<mark>徳川家光没・</mark>1651=57歳:この年から,**_貧農の救済と年貢納入の徹底を図るべく,奉行を置いて,改作法を始め,**

・・・・・1656=62歳: _この年まで、続けて、領内の石高を確保するというように、最後まで、藩政に尽力して、

明暦の大火・1657=63歳:

人身売買禁止1658=64歳:***綱紀の正室に、幕府の重鎮保科正之の娘摩須姫を迎えて、まもなく、没した。** 将軍が、初代家康、2代秀忠、3代家光と続いたのと、並行するように、初代利家、2代利長、3代利常と続き 、まさに、両者が呼応して、幕藩体制が盤石なものになったといえる。